

# 出版記念討論会

## 『UNSCEAR2020レポートへの公開質問』

2022年4月30日

**田口 茂**

福島県二本松市在住

# UNSCEAR2020レポート作成までの経緯

## (首相官邸のHPより抜粋)

### ①年次会合で課題を決定

(福島原発事故調査レポート作成を決定。2011年5月国連総会でも承認)

### ②世界中の調査研究資料(主に論文)を収集・整理・評価

(明石真言氏ら日本作業グループが関与)

### ③指名されたコンサルタントと事務局が報告書案を作成

### ④加盟各国にコメントを求める

(明石真言氏ら放医研主体のメンバー19名で構成された国内対応委員会が関与)

### ⑤年次会合でさらに精査(2019年11月に開催)

(日本からの会合参加者、特に明石真言氏らが関与)

### ⑥報告書最終案を取りまとめ

# UNSCEARの構成員

(福島医大国際シンポより)

1. 調整専門家グループ※(明石真言氏ら英国、ドイツから3名) ※上級技術顧問
2. 専門家グループ(ドイツ、英国、オーストラリア、フランス、米国等から9名)
3. 公衆被ばくタスクグループ  
(フランス、米国、ロシア、ウクライナ等から5名。オブザーバとしてIAEAと日本)
4. 大気拡散タスクグループ  
(日本4名※、ドイツ、フランス(2名)、英国(2名)から9名)  
※森口氏、赤羽氏、茅野氏、永井氏
5. 日本人作業グループ  
(明石氏、赤羽氏、青野氏、茅野氏、小笹氏)
6. 批判的査読者  
(ドイツ、米国、フランス、英国、スウェーデン等から13名)
7. その他の寄与専門家  
(オーストラリア、ドイツ、ノルウェー、ウクライナ等6名)

# 日本作業グループとUNSCEAR会合参加者

## 1. 日本作業グループメンバー（UNSCEAR直轄）

（日本の論文やデータ収集提供し、技術的アドバイス実施）

量研：明石真言※、赤羽恵一、青野辰雄（福島再生支援研究所）

JAEA:茅野（理事）、放影研：小笹晃太郎

※明石真言氏はUNSCEARの上級技術顧問

## 2. UNSCEAR 6 7 回会合の参加者（参加者はそれぞれ専門分野を分担）

（2020年11月開催：2020レポートの最終的な決定）

量研：中野隆史、明石真言、神田玲子

放影研 1 名（たぶん小笹晃太郎）

他に量研から 4 名、広島大から 1 名の計 9 名参加

福島事故関連は明石氏と量研の 2 名が担当。

明石氏らが中心となってまとめた日本案がUNSCEAR事務局に提案された。

（他の 2 名も量研であり、明石氏の思惑でどうにでもなりそう）

# 国内対応委員会の位置づけ （首相官邸のHPより抜粋）

- UNSCEAR事務局らが作成した報告書案に対するコメントが各国に求められる。
- 文部科学省や原子力安全委員会事務局などの支援のもとに、18人の委員で「UNSCEAR国内対応委員会」を組織。  
（他に100人近いコメンテーター）
- UNSCEAR報告書案を精査し、UNSCEAR事務局にコメントや必要な追加情報を提供。
- 事務局は量研・放射線医学総合研究所。

## 【参考】第29回国内対応委員会議事録（2020年10月12日開催）

### 1) 福島報告書の改定について事務局より説明（情報公開請求で入手。内容黒塗り）

- ・2019年までに受理された論文等のレビューが行われており、(67回)本会合にて承認を目指す予定。
- ・福島フォローアッププロジェクトのSenior technical advisorは**明石**前代表、放影研から1名、量研から3名
- ・量研から1名UNSCEAR 事務局に派遣
- ・新しい報告書では、改定された放出量のデータ、個人線量や空間線量のデータを使用。
- ・日本人のヨウ素吸着率や屋内における空气中放射性核種のフィルター効果などを考慮し、より現実的な線量推定実施。⇒この結果、**外部被ばく線量は若干上昇**。摂取による**内部被ばく線量は劇的に減少**。
- ・**健康影響**については**2013年報告書の見解は引き続き有効**であるとした。
- ・14か国から723件のコメントのうち、63件のコメントを技術的検討。クリティカルなコメントは無かった。

### 2) UNSCEAR 67回会合の審査予定のドラフトに対するコメントを10月16日まで提出するよう委員に依頼

### 3) アウトリーチ活動が2021年5月に予定（**実際は2022年2月頃に延期か？更に6月の延期の予定**）

### 4) 国連総会議長への説明(2020年10月に予定(実施))

### 5) 各国代表への説明(2020年12月に予定(実施))

# 福島県健康調査検討会議事録

(第41回(2021年5月開催) 鈴木元・甲状腺評価部会長の発言)

- 2013年報告と大きく違っているのは、日本人の放射性ヨウ素が甲状腺に取り込まれる率は ICRPの標準的モデルの30%ではなくて、**もうちょっと低い(15%)**ということが知られている。
- 日本人の特性に合わせ、ヨウ素131の甲状腺等価線量換算係数を修正する。  
これで**約50%線量(1/2に)**が変わった。
- 屋内退避による吸入被ばくの線量低減係数が、2013年報告では 福島県民全員、寒空の中、外にいたという評価になっていた。  
それを **50%の屋内退避効果(1/2へ)**があるという形で再評価。
- この2つで**内部被ばくは大体4分の1の線量に**。(内部被ばくの矮小化)

# UNSCRARへの公開質問の背景(2021年9月下旬提出)

1. 2021年3月にUNSCEAR 2020レポートが発表。

『将来にわたり被ばくを直接原因とするがんなどの健康影響が増加する可能性は低い』※  
との日本語のプレスリリースに違和感。 ※本文では必ずしも断定していない。

日本のメディアや国民をミスリード

[https://www.unscear.org/docs/publications/2020/PR\\_Japanese\\_PDF.pdf](https://www.unscear.org/docs/publications/2020/PR_Japanese_PDF.pdf)

2. 特に経口摂取と吸入摂取の内部被ばくの線量評価に、多くの疑問・疑惑。

3. 日本人作業グループは直接執筆していないが、詳細分析に強く関与。

- ・都合のよい論文やデータを恣意的に選択して、**結論を誘導**していないか？
- ・量研・明石真言氏と国際医療福祉大・鈴木元氏との私的つながり(共同論文多数)  
で、明石氏らが鈴木氏の論文(特に40のシナリオ)を意図的に優先した事実が無いのか？

⇒この事実のUNSCEARへの報告と見解の確認が必要。(3週間後に部分的な回答)



# UNSCEARへの公開質問内容

1. 初期の経口摂取線量の過少評価 (質問1、2)
2. 吸入摂取量の矮小化 (質問3～8)
3. 線量推計値の矮小化
  - ・ヨウ素の体内取り込み率を1/2に (質問9及び)
  - ・屋内避難効果の50%の疑問 (追加質問)
4. 内部被ばくの線量評価(線量係数)の矮小化(質問10)
5. 外部被ばく線量値の矮小化 (質問11)
6. 甲状腺がんの多発は放射能の影響 (質問12～18) **今回は割愛**
7. 日本作業グループの役割・ミッション (質問19)
8. UNSCEARの中立性への疑問 (質問20)
9. お願い

# 1. 初期の経口摂取線量の過少評価（1）

## 【質問1】

「モニタリングデータによる経口摂取の詳細評価の組み合わせて、より現実的な推計を行った」としてありますが、**初期被ばく**に関する具体的記述はありません。（パラグラフ151～153）  
以下の事実①～⑥の**初期被ばく**について、UNSCEARはどう評価したか？

①浪江町民が津島に避難した3月12日以降、避難先で路地野菜の炊き出しを食べた。

（関西に避難した津島住民も証言）

<https://withnews.jp/article/f0210106000qq0000000000000000W0f710601qq000022255A>

<https://www.asahi.com/articles/DA3S14471890.html>

（3月15日、38km北西部の雑草は**123万Bq/kg**★）

★この雑草と同じ汚染の野菜を幼児が**200g**摂取した場合に甲状腺等価線量は**51.7mSv**

**400g**以上摂取すれば**100mSv**を超える。

# 1. 初期の経口摂取線量の過少評価（2）

- ② 3月16～17日の川俣町の原乳が県内でヨーグルト加工し出荷（注1）。  
（ヨウ素131は1,190～1,510Bq/kg、3月20日は最大で  
5,300Bq/kg）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000015iif.html>

（厚労省HPより）

注1:3月21日:出荷制限(ホウレンソウ、原乳)

- ⑤ 事故後10日間廃棄処分の牛乳を3世帯で飲んでいた。

<https://togetter.com/li/677668>

★原乳2L(毎日200ml×10日(注1))で約1万Bq。

乳児で甲状腺等価線量が60mSv程度(4Lなら120mSv)

# 1. 初期の経口摂取線量の過少評価（3）

## ③未公開福島県中央卸市場データ（3月19日）

福島市のアサツキ	・ I-131	48,000Bq/kg	・ I-132	76,000Bq/kg
※出荷制限なし	・ Cs-134	64,000Bq/kg	・ Cs-137	64,000Bq/kg
★大玉村のホウレンソウ	・ I-131	43,000Bq/kg	・ I-132	73,000Bq/kg
※3月23日まで流通	・ Cs-134	90,000Bq/kg	・ Cs-137	89,000Bq/kg

福島県内各地で10,000Bq/kg以上の野菜が3月22日まで出荷されていた。

（詳細は以下OurPlanetTVのURL）

<http://www.ourplanet-tv.org/?q=node/2597>

出荷制限の3月23日まで、大玉村の★ホウレンソウと同等レベルの汚染された野菜を  
幼児が1日200g(大人は400g)摂取すれば、

例1: 幼児が1日200gを摂取した場合の甲状腺等価線量は  $43,000 \times 0.2 \times 12 \text{日} \times 1.15 \times 10^{-6} \text{Sv/Bq} = 118,680 \text{Bq}$   
 $118,680 \times 2.1 \text{E-}06 \text{ Sv/Bq} = 249 \text{mSv}$ （注: 摂取量が400gになれば498mSv）

例2: 大人が1日400gを摂取した場合の甲状腺等価線量は  $43,000 \times 0.4 \times 12 \text{日} \times 1.15 \times 10^{-6} \text{Sv/Bq} = 237,360 \text{Bq}$   
 $237,360 \times 4.3 \text{E-}07 = 102 \text{mSv}$ （注: 摂取量が800gになれば204mSv）

いずれも甲状腺等価線量は100mSvを超える

※13日から23日までの11日間のI-131の平均汚染度は19日(8日目)の約1.1~1.15倍程度。

# 1. 初期の経口摂取線量の過少評価（4）

## ④福島県の**基本調査結果**※はどのように線量評価に反映したか？

- ・避難地域住民の40シナリオ（注）はランダムに採用。 注：鈴木元氏の論文
- ・高線量被ばく者が漏れている可能性がある。
- ・汚染された野菜が流通していた中通り地区住民はどのように評価されたか？  
具体的なデータを開示し説明ください。

※津島住民の一人は福島医大が信用できないと**提出拒否**。

回収率は県内全体で30%程度（避難地域は比較的高い）

## ⑥京都大・今中氏の飯館村個別訪問インタビュー結果

<http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/ISP/ISPmemo12-12-6.pdf>

（3月15, 16日何をしていたか、何を食べたか、いつ避難したか？ 200戸をランダム抽出）

- ・給水を待つ間に屋外で飲食した。
- ・当時淡水魚を食べていた。      ・イノシシを食べた。

★摂取制限が出る3月22日まで汚染された**路地野菜**を食べた事も想定される。

## 2. 吸入摂取量の矮小化（1）

### 【質問3】

ヨウ素の初期内部被曝線量は外部被ばく線量値（Cs）から推定。

当時の東大・森口祐一教授らの以下の論文によれば、ヨウ素の線量値はCsの線量値とは必ずしも比例していない地域がある。

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0265931X19309920>

放医研の栗原治氏のパワーポイント★によれば、I-131とCs-137との比率がいわきでは18.7倍程度、川俣では4.6倍程度、飯舘では3倍程度。

★ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/50320.pdf>

UNSCEARはその比率をいくらにしたか、I-131に関する線量評価方法を開示ください。

この係数（倍率）によって吸収摂取量は大幅（東電報告では最大で100倍の開き）に変わり、内部被ばく（甲状腺等価線量）の評価結果を大幅に変えざるを得ません。

## 2. 吸入摂取量の矮小化（2）

### 【質問4】

避難地域の40シナリオ※だけの被ばく線量値を平均化する事は被ばくの実態全容を表していない。

40シナリオ（表A12と表A13）の全ての**計算過程**（経口及び吸入摂取による内部被ばくと外部被ばく）や**サンプル**も含めた**詳細データ**を開示ください。

[https://www.unscear.org/docs/publications/2020/UNSCEAR\\_2020\\_AnnexB\\_AdvanceCopy.pdf](https://www.unscear.org/docs/publications/2020/UNSCEAR_2020_AnnexB_AdvanceCopy.pdf)

特に初期被ばくが大きい地域住民はどのように抽出されたのか？

※県民健康調査で収集した900人をランダムにサンプリングした福島医大・大場隆氏の論文（37シナリオ）をベースに、広野と葛尾村（2シナリオ）の3シナリオを追加した鈴木元氏の論文がベース

## 2. 吸入摂取量の矮小化（3）

### 【質問5】

避難地域の40のシナリオの以下の疑問について見解をお聞かせください。

- ① 40のシナリオでのサンプル抽出が10万人以上の避難者の全てを表しているとは言えない。対象数シナリオが40と少なすぎ、**高線量被ばく者の存在等全容が見えにくく**、データを意図的・恣意的に捻じ曲げていないか？

[http://www.env.go.jp/chemi/R2\\_T1\\_1.pdf](http://www.env.go.jp/chemi/R2_T1_1.pdf)[http://www.env.go.jp/chemi/R2\\_T1\\_1.pdf](http://www.env.go.jp/chemi/R2_T1_1.pdf)

- ② 甲状腺がんの関係を追及するなら**高線量被ばく**（内部被ばくも含めて）の地域住民を主に対象とすべきではないか？

- ③ 比較的線量の低い相馬市、楢葉町、小高地区、川内村住民を多数対象としているが、恣意的なデータ改ざんに当たらないか？

- ④ 線量の高い、避難地区となっている浪江町（特に**津島地区**）、**双葉町**、**大熊町**、**飯舘村**、**川俣町山木屋地区**の住民を**重点的に対象**とすべきではないか？



## 2. 吸入摂取量の矮小化（4）

### 【質問6】

以下（①～④）の住民の被曝線量値（内部被ばく＋外部被ばく）をどう評価したか、データ等を具体的に開示ください。

- ・ 1号機のベント：3月12日 14:30頃
- ・ 1号機水素爆発：3月12日 15:16

- ①爆発当時300人が北西3kmの双葉町役場に残っていた。
- ②双葉町民の一部は12日12:00～18:00に避難開始。
- ③双葉町民の一部には13日以降に避難した住民もいた。

（注：上記①～③は榊原崇仁東京新聞記者の著書より）

- ④浪江町赤字木地区は3月16日には最大170  $\mu\text{Sv/h}$   
津島地区も100  $\mu\text{Sv/h}$ を超えていた（規制庁HP）

（3月13日には220  $\mu\text{Sv/h}$ 程度と予測） ※この地域に避難したり留まっていた住民多数。

## 2. 吸入摂取量の矮小化（5）

### 【質問7】

避難者へのモニタリング基準 **13,000 cpm**（注1）に関し、政府事故調ヒアリングで当時現場に立ち会った放医研の立崎英夫氏は『かなりの割合で13,000 cpmを超えていた。』と説明★。

★[https://www8.cao.go.jp/genshiryoku\\_bousai/fu\\_koukai/pdf\\_2/186.pdf](https://www8.cao.go.jp/genshiryoku_bousai/fu_koukai/pdf_2/186.pdf) 注1：甲状腺等価線量：100mS相当

この事は相当数の避難者が甲状腺等価線量が**100mSvを超えていた**事になる。

- 1) この事実を40のシナリオの中ではどのように評価したか？
- 2) 3月14日以降**10万cpm**に引き上げた基準値変更を正しい判断と評価したか？
- 3) **10万cpm**は甲状腺等価線量は**何mSv**と判断するか？**計算方法**を開示ください。
- 4) 基準値を上げた事によって、多くの住民の初期内部被ばくの実態は闇に葬られたままになっている。

この事実レポートでは触れていない。アンフェアと思うが見解をお聞かせください。

※多くの住民が13,000 cpmを超えたので、3月14日以降、放医研（福島県）は『10万cpmに達しても0.17mSvに過ぎない』（注2）とし、**17日には10万cpmに引き上げた**。  
この事によって「避難者はどんな値でも問題ない」とされてしまった。

注2:放医研の細井 義夫. 福島県のスクリーニングレベル引上げの証言も重要。立崎氏の証言と一致。

[https://www8.cao.go.jp/genshiryoku\\_bousai/fu\\_koukai/fu\\_koukai\\_2.html](https://www8.cao.go.jp/genshiryoku_bousai/fu_koukai/fu_koukai_2.html)

## 2. 吸入摂取量の矮小化（6）

### 【質問8】（質問7と関連）

3月24日～30日に政府によって実施された、1,080人のスクリーニングで、甲状腺等価線量で100mSv※を下回った為に、全体的に問題ないとして、その後のスクリーニングを中止。

この一連の役割を当時放医研の**明石氏**らが深く関与★

★[https://www8.cao.go.jp/genshiryoku\\_bousai/fu\\_koukai/pdf\\_2/761.pdf](https://www8.cao.go.jp/genshiryoku_bousai/fu_koukai/pdf_2/761.pdf)

更に、明石氏はUNSCERA2020レポート作成にも関与。この事実によってUNSCEARの中立性や信頼性が揺らいでいる。（多くの専門家や市民が危惧） 本件に関する見解を聞かせてください。

★一連の重要な役割を果たしたのが『**放医研・明石氏ら**』（榊原記者の著書等や国内対応委員会議事録から）

- ・「10万cpmでも0.17mSv」の文書作成に関与。
- ・「半減期の問題で測る時間が残されていない」と政府に進言。
- ・放医研は被害の過少化や測定中止へ働く。
- ・UNSCEAR2020レポートに放医研の**明石氏**が深く関与。  
（UNSCEAR上級技術顧問、日本作業グループで文献調査を指揮）

⇒自らの不作為を消し去る為の**マッチポンプ**とも受け取られていますが？

### 3. 線量推計値の矮小化(1) ～ヨウ素の体内取り込み率を1/2に～

#### 【質問9】

放射性ヨウ素の体内摂取量から甲状腺に集まる係数をICRP係数の1/2を採用。

以下の①～③の理由で内部被ばく線量値を矮小化したと考える。

本件に対する説明を聞かせてください。

※日本人は西洋人に比較し昆布の摂取量が多い為に甲状腺に集まる放射性ヨウ素が甲状腺に集まるのは西洋人(注)の半分(15%)とした。

注:西洋人は30%としている。

- ①最近の研究(2015年学術誌論文:K5★)によると「特に若い人に食事パターンの変化に伴い、ヨウ素不足が徐々に増加しうる」とある。

★K5 Katagiri, R., K. Asakura, K. Uechi et al. Adequacy of iodine intake in three different Japanese adult dietary patterns: a nationwide study. Nutr J 14: 129 (2015)

- ②日本人が放射性ヨウ素を摂取した場合に甲状腺への取り込みは $16.1 \pm 5.4\%$ や、 $12.8 \pm 5.7\%$ とした。この時の被験者は15人及び6人のみで、日本人全体の平均とは言えない。
- ③福島県によるとがん患者の尿中の安定ヨウ素は1Lあたり「 $100 \mu\text{g}$ 」台と少なかった。  
(日本人は $300 \mu\text{g}$ と言われてきた。) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/240821.pdf>

### 3. 線量推計値の矮小化(2)

～ヨウ素の体内取り込み率を1/2に～

#### 【放医研からの質問9-②への回答】

- ・おっしゃる通り、日本の代表値とするには被験者数は少ない。
- ・UNSCEAR が 報告書を取りまとめた時点で、2011 年の日本人の甲状腺への取り込み率を推定する利用可能な情報は限られていた。
- ・新たな知見が得られたら、取り込み率の見直しもあるかもしれないが、今のところこの値を修正する根拠となる論文はない。
- ・尿中のヨウ素濃度はばらつきが大きい。

#### 【鈴木元氏からの回答】

- ・甲状腺ヨウ素取り込み率0.5を採用した理由はUNSCEARに直接聞くべき。
- ・Kudo論文ではヨウ素の取り込み率の分布を推計し18.6± 6.0%

# 3. 線量推計値の矮小化(3)

～屋内避難効果の50%の疑問～

## 【追加質問】

屋内退避した場合、吸入摂取が屋外の**50%**に低減すると評価したが、その理由を開示ください。 注:日本の古い木造建物は隙間だらけのものもあり

## 【鈴木元氏の回答】

屋内退避効果はJAEAのHirouchi氏らの東北地方の様々な建造年代の建物で実測した喚起率をもとにした論文をベースにしている。

⇒この論文の結論は以下。

福島事故の場合の屋内退避効果を**数値では断定できない**。

プルームの通過時間、風速、プルーム粒子のサイズ、建物の構造や古さ等多くの要因で異なる。

# 3. 線量推計値の矮小化(4)

～屋内避難効果の50%の疑問～

## 【新たな情報】

原子力安全委員会は『環境放射線モニタリング指針』において

「放射性ヨウ素に係る線量換算係数については、ヨウ素が体液から甲状腺に移行する割合を平常時では0.2、**緊急時では0.3**としている。これは平常時においては海藻類を多く摂取する日本人の食生活を反映するため、緊急時には保守的な評価とするためである」と記述。

平成20年3月(平成22年4月一部改訂 P44)

⇒今後、UNSCEAR、原子力規制委員会、放射線審議会、放医研、鈴木元氏らに再確認予定。

## 4. 内部被ばくの線量評価(線量係数)の矮小化

### 【質問10】

内部被ばくの線量評価に関するICRPの**線量係数**(Bq→mSvへの変換係数)をどのようにに評価したか？

- 例えば放射性微粒子がホットスポット的に集中被ばくが生じる不均一被ばく時の内部被ばくの実効線量の計算方法について開示ください。特に**線量係数**について(電離を受けなかった細胞を「**吸収線量**」を臓器毎にする**平均化**する手法採用)
- 黒い雨裁判の判決ではICRP勧告・見解(内部被ばく等)を否定
- ECRR, 矢ヶ崎氏(琉球大名誉教授)、西尾氏(元北海道がんセンター所長)等多くの有識者や市民からの不信感。
- 福島県健康調査検討会からもUNSCEAR2020レポートの線量評価を否定
- ICRPの甲斐委員は7年前に見直しを検討すると田口に回答

(ある有識者からは線量係数は今の**5倍程度以上**が妥当との意見も?)



## 7. 日本作業グループの役割・ミッション

### 【質問20】

日本作業グループはレポート執筆はしていないが、詳細分析には強く関与しているので、都合のよい論文やデータ意図的に選択して、**結論を誘導**していないか？

明石真言氏は鈴木元氏との私的なつながり(共同論文多数)があり、鈴木氏の論文を優先的に採用した事実が無いかが検証すべき。UNSCEARとしての見解をお聞かせください。

### 【UNSCEARの回答(1)】 2021年9月

日本が指名したパートナーの専門家と機関は、このUNSCEAR評価と専門家グループを特に以下によって支持。

- a. 関連する科学的および技術的出版物と研究計画を特定。
- b. 委員会および専門家グループによる文献の要求に対応。
- c. 公開された情報を解釈し、要求に応じてプロトコルと方法論の詳細説明を取得に役立つ。
- d. 報告書の草案に関する技術的コメントを委員会に提供。

# UNSCEARからの回答(2) 2021年9月

## UNSCEARの中立性について

- 12の加盟国とオブザーバーからの30人以上の国際的な専門家が取り組み、13人の批評家が報告書をレビュー。
- 200人以上の参加者※が参加した第67回委員会が報告書を検討し採択。  
代表団は、UNSCEARセッションごとに、委員会の作業の統治原則に従って、科学的資格と経験に基づいて指名するよう求められ、科学的資格と経験に基づいて科学的評価を行うべきことを、再確認したい。 ※日本からは明石真言氏はじめ9名参加
- これらの専門家は、とりわけ、放射線科学に関連する幅広い科学的および技術的問題に関して深い知識と経験を持ち、科学的発展に遅れずについていき、効果的な支援を促進することが期待されている。
- 彼らは独立して行動し、委員会の手続きや任務と矛盾する可能性のある外部からの圧力や利益に関連して、偏見なく職務を遂行する。  
さらに、彼らは誠実に行動し、知的財産の問題を尊重する。

## 9. お願い

多くの専門家や市民の疑問に答えくださる事に感謝いたします。

そして、その疑問解決の為には情報共有化が欠かせません。

世界中の政府、地方自治体、専門家、メディアそして市民が正しく情報共有する為には、UNSCEARのHP上(Web上)に日本語と英語のQ&Aのサイトを至急準備して頂くようお願いいたします。また、至急日本語版の発刊もお願いいたします。

【UNSCEARからの回答(3)】 2021年9月現在

- 既存のUNSCEAR Webサイトには公開Q&Aに関するセクション (<https://www.unscear.org/unscear/en/faq.html>) があり、新しいUNSCEAR Webサイトを作成中です。

国連ガイドラインに沿って、2022年第1四半期までに最終決定される予定です  
今後検討される提案に改めて感謝します。

# UNSCEARからの回答(4)

2022年4月22日

何度も督促していたところ、UNSCEAR事務局長から以下メールが送られてきた。  
その要旨が以下

1. 小生の質問の回答を準備中で近々回答する。

(こう言って、すでに4か月も経過している。(笑))

2. 今までのQ&Aを準備し、数週間以内にHPで公開する。

(これも実際の公開までは信用できない?)

3. electronic attachmentsは4つを除き公開。残りは5月上旬に公開予定。

(これも数か月間も遅れていた)

[https://www.unscear.org/unscear/en/publications/2020\\_2021\\_2\\_Attachments.html](https://www.unscear.org/unscear/en/publications/2020_2021_2_Attachments.html).

※準備中の回答内容は、今までの主張を説明する事にはなるだろうと推定。

但し、より矛盾点が明らかになれば、更に追及する必要性がある。

# UNSCEAR2020レポート解明の共同研究提案(1)

1. **甲状腺等価線量係数(1/2)や 50%の屋内退避効果**の検証と追及の継続
2. 個々の公開質問(1～20)に対する回答とWeb上での公開の継続
3. 6～7月に日本で開催予定のアウトリーチでの議論の為の組織的な準備
4. 日本作業グループが都合のよい論文やデータを恣意的に集めて、専門家部会で公正・中立に議論したとしても、結論は偏る事は明らか。  
⇒国内対応委員会や日本人作業グループでの議事録等の再検証が必要。  
(しかし、情報公開請求も黒塗り部分もあり、解明は限定的か?)
5. 多くの方々がUNSCEARへ公開質問すると同時に、Q&AのHPへの掲載要請が必要。

## UNSCEAR2020レポート解明の共同研究提案(2)

6. 経口摂取については、出荷制限がかかった3月23日までの間に、どの市町村にどれだけの量が出荷され、どのような人が消費したかの調査。

⇒中央卸市場への情報公開要求

※福島県に調査要請も無いとの返事（**情報公開請求が必要か？**）

<https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-11-26>

7. スーパーには、農家が直接持ち込み販売するケースも多い。  
主なスーパーに対し、当時の取引状況の調査必要。  
又、道の駅や農産物直売所では、農家が直接持ち込んで販売していた為、野菜の種類や販売量の調査必要⇒福島県に調査要請も困難との返事
8. 当時の経口摂取に関する（事故当時に汚染された露地野菜等を摂取したかどうか等）の**アンケート調査**必要。（案は作成済）  
（大学等の信頼おける機関でのアンケート調査が必須）

# 関連論考とサイトと著書

★公開質問と回答は以下。

【UNSCLEARへの公開質問】

<https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2022-01-20> (前半)

<https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2022-01-20-1> (後半)

【UNSCESARからの回答】

<https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-11-22>

★関連記事です。

【UNSCLEAR・国内対応委員会は公正・中立か】

<https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-11-30>

【UNSCERAレポートの内部被ばくの矮小化】

<https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-10-09>

【UNSCLEARレポートを捻じ曲げた黒幕は誰か?】

<https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-04-07>

★白石草さん (Our Planet-TV代表) の『科学』と『週刊金曜』

★榊原崇仁記者 (東京新聞) の『科学』の論考とそして著書『福島が沈黙した日』

# ご聴講ありがとうございました。

- ★疑問点はUNSCEAR、原子力規制庁、放射線審議会、放医研、鈴木元氏らに直接質問しましょう。
- ★声を出さないと、どんな場合(事故)でも、被ばくは無かった事にさせられてしまう。
- ★今後の3.11甲状腺子ども被ばく裁判等で被害者が有利に闘える環境作りが非常に大事。
- ★是非、みんなで声をぶつけましょう！